

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690300021		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	京都壬生ケアセンターそよ風(グループホームたんぼぼ・すみれ)		
所在地	京都市中京区壬生天池町24番地		
自己評価作成日	平成26年7月14日	評価結果市町村受理日	平成26年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2690300021-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町上ノ口上ル梅湊町83-1「ひとまち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成26年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々にそったケアを目指し、各入居者様に満足いただけるように個別ケアに力を入れケアを実践している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年度の目標達成計画の1つ、地域密着型事業所として開設来懸案であった地域との交流に新たな展開が見られた。地元小学生の定期的な来訪による紙芝居やダンス、合唱を通じた利用者との交流。また運営推進会議メンバーの紹介で、地域主催の祭りや、運動会への参加。地元からは設置されたAEDの利用を勧める声かけ。一方事業所も「大文字」の鑑賞に事業所屋上を開放し、地域との交流の機会を設けるといった今までになかった取り組みがなされている。次いで、開設から7年が経ち、利用者の高齢化に伴いターミナルケアへのニーズが出て来ている。今年には四名のターミナルケアを体験している。このことは、医療体制の整備はもとより、ケアワーカーには職業倫理に基づくケアを会得し、実践する貴重な機会といえる。ケアの質向上に繋げる取り組みや実践を期待する。また当事業所は家族へのアンケートや、身体拘束・虐待防止に関する職員アンケートを定期的実施し、結果を公表し共有している。積極的に意見を聞き、実践を振り返る事業所の姿勢は評価できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に「そよ風憲章基本理念」唱和して職員は理念の共有を実践している。またユニットの入り口にユニット理念を提示している。	法人理念に添って年度当初ユニット毎に理念をそれぞれ「一日一回笑顔で過ごす」、「利用者に寄り添う介護」と設けている。笑い声に繋がる介護をめざし、隣のユニットにも笑い声が聞こえてくる。「利用者に寄り添う介護」に力を注いでいるユニットからは利用者同士の会話が聞こえてくる。理念を意識しケアの実践に努めている一端が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学生の訪問を定期的に受け地域や小学校の運動会に招待を頂いている。またご近所の散歩中等に挨拶を交わしお話をさせて頂いている。	新たに地元小学校との交流が始まり、3年生が定期的に来訪し、子供たちが作った紙芝居やダンス、合唱を利用者は楽しんでいる。地域主催の祭りに参加したり、地元を設置されたAEDの利用を勧められたりとの交流が出来ている。一方「大文字」の鑑賞に事業所屋上を近隣住民に開放する等、地域との相互交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで入居者様の日々の生活の報告を通し認知症の理解をふかめて頂くようお願いさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、地域自治会長、地域包括職員をメンバーとし2ヶ月に1回実施。会議で頂いた発言を積極的に取り入れている。	会議は家族・自治連合会会長・地域包括センター職員で構成されている。議事録は家族に送付し、会議案内時には家族に意見用紙を送り意見・要望を求めている。会議では、詳しい資料を基に事業報告をし、メンバーから地域の情報提供等があり、「朱五まつり」に利用者と参加する等、会議メンバーの助言や情報提供が地域との交流に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事について、市の担当者に相談し、助言を頂くようにしている。事業者集団指導へも参加している。	区の担当課には議事録を送付し、質問や相談ある場合は随時電話や訪問をし助言等を得ている。ただし、区主催の地域密着型連絡会議への出席は昨年に引き続き業務の関係で必ずしも参加出来ていないが、職員交替で参加出来る様努力している。	地域密着型連絡会議は市からの情報提供に加え、地域の関係事業所との交流や各事業所の実践から得る知識や情報は多い。所内の業務調整により参加を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待の芽チェックリストを掲示し職員の意識強化に努め、年3回アンケートを実施し会議で話し合っている	身体拘束をしないケアは社風であり、当該委員会は2ヶ月毎に開催している。一方15項目からなる「虐待の芽チェックリスト」を設け、年3回全職員は無記名の自己評価を提出している。結果を集計し、表をスタッフルームに掲示し、自己レベルを確認させている。事業所の扉が施錠されている。過去出て行かれた例があり、安全を優先し施錠をしている。このことを含む話し合いは継続し、協議内容は記録にし共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を2ヶ月に1回開催し事例検討や疑問について話し合い回覧している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	契約時に必要な方には後見人制度についてお知らせするようにしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず読み合わせて理解・納得を図っている。契約時に十分な時間をかけて話し合っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置。家族に運営推進会議の案内を郵送し、参加できない家族に対し意見用紙を同封し意見を求めている	アンケートを年3回実施し家族の意見を聞いている。収集した意見は運営推進会議に報告し、家族にも配布している。「そよかぜ便りに親の写真があると安心」との意見、壁面を少し賑やかに、季節感を入れる工夫をといった意見に、工夫をし可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設事業所、厨房とともに月1回全体会議を開催し職員の意見交換の場を設けている	職員会議は全体会議・ホームユニット会議・ケースカンファレンスがある。最近就任されたセンター長は全職員の個人面談を済ませ、職員の積極的な取り組みを支援する姿勢を示されている。職員も期待に応えようと考えている。現在、業務の優先順位の見直しを職員から提起されており改善に向け話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声を拾い上げるよう声かけ職場環境の整備に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回程度施設内での研修会の実施。事業所以外の研修を回覧し参加の機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会を開催し意見交換、交流の場を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント、生活歴の把握や、ご本人からの要望や様子をともに、職員で話し合いケアにつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談で十分な聴き取り、提案、相談しながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の様子や訴え、家族からの情報から必要としているサービスを見極め提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の得意とする事を見極め日常的に依頼するようしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を詳しく伝え、本人の困り事解決の助言を頂くようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人来訪時は旧交を温められるよう対応している	昔住んでいた家の隣人、会社の友人等の訪問者には、寛いでもらえるよう、お茶の接待をしている。利用者が日頃気にしたり、話題に登場する、以前住んでいた場所、通っていた小学校の周辺をドライブすることもある。馴染みの喫茶店やスーパーなどを訪ねることもあり、外出には家族と共に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会などのレクで共通の場を設け、席次に気を配っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談の窓口を紹介し不安なく次へ移行できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人家族から意向や思いを聞く。意思表示が困難な場合は気付いた事を記録し職員間で共有する	相談開始時、自宅訪問し本人・家族の思いや、希望を聞いている。関係者から得た情報は、「そよ風」独自のアセスメントシートに記載している。家族には利用者の暮らし方や出来ること、できないこと等のチェック表を書いてもらい参考にしている。入居後、意思疎通の困難な場合は、表情やサインで思いを読み取る様にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	そよ風独自のシートとセンター方式使い家族にも記入して頂き情報把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に様子観察を怠らず、小さな変化に気づけるよう気を配っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合いそれを基にケアプランを作成している	医療情報やアセスメント情報を基に、利用者や家族の意向を採り入れた介護計画により支援を実践。結果のモニタリングは原則、3ヶ月毎に行っている。変化があれば再アセスメントをしサービス担当者会議を経て、介護計画の見直しをしている。日々の「支援経過記録」、「週報」、「介護援助計画表」等を基に日々のケアが実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録、職員の連絡ノートで情報共有し話し合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外食等本人、家族の希望に対しては態勢のゆるす限り対応に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科、看護の定期的な医療援助を行い、マッサージ等でリラックスの時間を設け外部との交流の時間を楽しめるようしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認と協力医療機関の紹介をし自由に選んで頂く。往診時には職員が立会い受診記録の記入実施	契約時にかかりつけ医を確認している。かかりつけ医は2週毎に往診があり全員受診している。往診時に同席される家族もある。訪問歯科あり。マッサージ師は週3回訪問があり、希望者に対応されている。医療機関とは24時間オンコールで対応が出来、緊急時には医師、看護師の連携の下に対応される。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院との連絡を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の入居者の状況把握に努め、ご家族様と情報共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向の確認実施。容態変化の場合、医師、家族と話し合いの場を持ち特別な医療行為が無い場合は終末期の支援を行う	「看取りの対応に関する指針」が設けられ、利用時には説明をしている。容態変化時には家族・医師他関係スタッフを交えて話し合い、家族の希望を受け、看取りの体制を取り支援している。今年度は4例の看取りがあった。看取りケアに臨んでは適宜職員の研修を行っているが、計画的な研修は行っていない。	職員で「看取り指針」を共有する事はもとより、介護職員を対象とした計画的な看取りに係る研修を求めたい。生命に係るケアは介護職員にとって重要な課題である。研修等を含め検討を望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回定期的実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を行っている	年2回避難訓練を行い、1回目は消防署立会の基に日中のデイサービス合同の火災訓練を行っている。2回目は自然災害、夜間想定訓練を10月に予定している。訓練に関する地域との協力体制は無い。備蓄は2日分を確保されている。	地域の防災訓練への参加をはじめ、自衛消防団との連携に向け具体的な取り組みが望まれる。運営推進会議の議題に挙げ、助言や情報提供を得られてはいいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法令順守、接遇、プライバシー保護の施設内研修実施。	内部研修で尊厳・プライバシー・身体拘束を取り上げ、関連項目を内容とするチェックリストで年3回自己チェックし、全職員の結果を組織として共有、実践面に反映する仕組みが取られている。日常での気になる言動は率直に注意し、誰かがフォローをするといった対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者のお話を傾聴し、その意思の尊重、より良い自己決定の選択への促しをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりその人らしい生活をご本人の希望に出来るだけ添えるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容活用の支援。またその人にあつた好みの服装が出来るよう気配りしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食レク、定食レク、喫茶レクを行いつつもと違った雰囲気を楽しんで頂くようにしている	メニューは法人の管理栄養士が立て、食材も運ばれて来るが、利用者の好みに合わせて調理方法は変えている。ケアにおいて「食」を大切に、普段の品数も多い。外食レク・定食レク・喫茶レクと、変化を持たせ利用者も楽しみにしている。開設当初に比べ高齢化が進み利用者の食事準備段階の参加は少なくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に1日の水分摂取量、食事摂取量を記録。好き嫌いの食品の情報の共有をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施。ケア確認の記録。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表での確認。その方のパターンにあわせたトイレ誘導実施	排泄チェック表から把握した排泄パターンや利用者のサインで声かけをしトイレへ誘導をしている。自立の人も部分的に介助が必要になってきている。夜間は利用者の状態に合わせて、トイレ誘導をする人やポータブルトイレを利用している人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便パターンを考慮し便秘気味の方には散歩や水分補給の実施		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気分やタイミングを見ながら誘導。くつろげる時間になるようゆったり入浴して頂く。	毎日13時半～17時が入浴時間帯で、平均週3～4回入っているお風呂好きである。毎日入浴している人もある。入浴拒否の人には、入浴後の楽しみ事を設け、誘い入浴が出来ている。菖蒲湯や柚子湯等の季節湯も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や気分、習慣を見極め誘導している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の基、服薬介助、症状の変化あれば医師に連絡実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた気分転換、役割作りをケアプランに取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事の花見、紅葉、ドライブ実施。買い物や外食の個別支援。外気浴の実施	周辺散歩は出来ていない。外気浴を短い時間でも階下になりホーム前のベンチで行っている。ドライブで大型スーパーに行きウインドーショッピングや喫茶店でお茶を楽しむこともある。年間行事では花見・祇園祭・紅葉狩等に行っている。他、個別ケアとして利用者から希望を受け、外食や馴染みの場所、思い出の小学校等に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は困難な方が多いが、一緒に買い物に出かけたり、代行を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し、都合の良い時間、曜日の確認を行い希望時には対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の維持を確認し、季節感を取り入れるようにしている。入居者同士の相性に気配りし、トラブルの回避に努めている	利用者と共同制作の彼岸花やお月見の壁面の貼り絵が、季節感を醸し出している。リビング内は落ち着いた照明が使われ、西日対策に使われている厚めのカーテンが室内を暗くしているとの声がある。リビング内の利用者の座席は職員が神経を使う点で、定位置を決め寛いで過ごせるよう配慮している。ソファがリビングの壁際や廊下に置かれ、利用されている。室内の温・湿度は記録を取り、冬場は加湿器で対処している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の移動やソファの移動など思いのまま過ごせるようしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅に近い環境になるよう馴染みの物を持参して頂いている。	それぞれの居室は馴染みの整理筆筒やテーブルと椅子・仏壇やキリスト教の祭壇が置かれたり、折り紙の作品・犬の縫いぐるみ・犬の置物などを設え、それぞれ室内は個性がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印を作ったり、安全に移動出切るよう家具の配置をしている		